

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時から「自分の命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけましょう。

自宅がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地やがけのそばなどに住んでいる場合は、町の避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として立ち退き避難（自宅の外に避難）が必要です。

例外

浸水の危険があっても、次の場合は、屋内安全確保（自宅に留まり安全確保すること）も可能です。
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう恐れの高い区域の外側である。
②浸水する深さよりも高いところにいる。
③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある。

ご自身または一緒に避難する人は避難するのに時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら、町が指定する**指定避難所**に避難しましょう。

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4 避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル4 避難指示が出たら、町が指定する**指定避難所**に避難しましょう。

危険です。平時から自分たちの地区を確認し、「大雨の際ここに大きな水たまりができてい」「地震の際このブロック塀が大きく揺れていた」など皆で情報を持ち寄り、実際に危険箇所を確認し、地域防災マップを作り、安全な避難経路を検討しましょう。

その際、避難に手助けが必要な高齢者等が住む家などに印をつけ地区の人たちの間で情報を共有しましょう。

■避難が必要な危険な場所とは
①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っている
②全居室が浸水する
③水が引くまでの間の避難生活に支障がある
①～③に該当しない場合は、浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です。

ただし、土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

町が発する警戒レベル4「避難指示」で危険な場所から必ず非難しましょう！

これまでの「避難勧告」は廃止されました

警戒レベル	住民がとるべき行動	町の対応（町が発する避難情報等）	
		これまで	これから
5	命の危険 直ちに安全確保！	災害発生情報	緊急安全確保
4	危険な場所から 全員避難	避難指示（緊急） 避難勧告	避難指示
3	危険な場所から 高齢者などは避難	避難準備・ 高齢者等避難開始	高齢者等避難
2	ハザードマップ等 で避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注 意報（気象庁）	大雨・洪水・高潮注 意報（気象庁）
1	災害への心構えを 高める	早期注意情報 （気象庁）	早期注意情報 （気象庁）

図 生活環境課（内線 2131）

避難情報が変更になりました

5月20日から

■変更のポイント
▼避難に時間がかかる高齢者や体の不自由な人は、警戒レベル3「高齢者等避難」で危険な場所から避難しましょう。
▼避難勧告は廃止になりました。これからはこれまでの避難勧告のタイミングで発令される警戒レベル4「避難指示」で危険な場所から全員避難しましょう。
▼警戒レベル5「緊急安全確保」はすでに安全な避難ができず命が危険な状況です。直ちに自分の身の安全を守る行動をとります。
■知っておくべきポイント
コロナ禍においても、災害時に危険な場所にいる人は避難することが原則です。

▼「避難」とは「難」を「避」けることです
安全な場所にいる人は避難所に行く必要はありません。
▼避難先は避難所だけではありません
安全な場所に住む親戚・知人宅や宿泊施設などに避難することも考えましょう。
▼町指定の避難所を確認しましょう
自分の住む地区の避難所はどこか平時から確認しておきましょう。
なお、災害時に地区の避難所へ避難することが困難な場合は、安全な避難経路を利用し近くの避難所を利用しましょう。
■地域防災マップを作成しましょう
避難時に、冠水した道路やがけ崩れの危険性がある斜面の脇を通るのは危険です。